

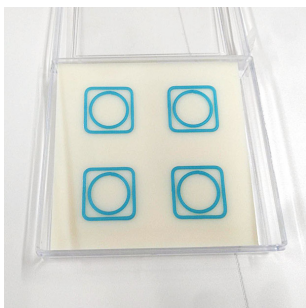
# UV硬化液状ガスケット

## LED光源に対応

### 電子部品・車関連など 年内に国内販売

#### 積水フーラー

積水化学工業と米HBフーラーの合弁である積水フーラー（東京都港区）は、LEDの光のみで硬化する液状ガスケットを2025年から販売する。紫外線（UV）硬化樹脂を硬化させる際の光源の主流が水銀灯からLEDへ移行するなか、電子部品やモヒリティ関連などを中心に幅広い用途への訴求を図る。サンプル提供を進めており、3年以内の本格採用を目指す。自社のUV硬化技術を強化し、事業の柱とする構えだ。



高い形状自由度を誇る（塗布後の液状ガスケット）

UV硬化型液状ガスケットは、接合面に塗布後、UVを照射して硬化させることで接合面を密閉

し、水分や空気などの侵入を防ぐ役割を果たす。接合面の形状自由度が高く、プロセスの自動化も

やすいというメリットがあり、現状でも産業機械や電子部品などさまざまな用途で採用されている

る。硬化時の光源には水銀灯が使われることが多かったが、水銀の環境影響

に対する懸念、照射にかかるエネルギー削減などの観点から、光源をLEDに切り替える動きが本格化しつつある。

しかし、水銀灯が幅広い波長スペクトル（波長成分）を持つのに対し、LEDは単一の波長しか発光できない。このためLEDの波長に適合した硬化条件を有する樹脂を

一から開発する必要があり、また、LEDの光源としてとくに多く用いられる365ナノメートルの波長はエネルギーが弱く、樹脂を十分に硬化させられない

という課題もあった。積水フーラーの新製品は、LED光源による単一の波長でも良好な硬化性を有する。密閉性などガスケットに求められる基本性能も高水準を備え、べたつきの指標であるタック性も低い。開発には樹脂の原料の選定や配合のバランスなど高いレベルの技術が求められることから市場に競合は少なく、独自の差別化要素になるといえる。

すでにサンプル提供を開始しており、早期の採用を目指す。電子部品やモヒリティ関連、家電などの用途での需要を見込んでいるが、顧客とのやり取りを重ねながらさまざまな分野に訴求する。25年中に国内で販売をスタートし、国内を開拓した後は親会社であるHBフーラーのネットワークも活用して海外展開を進める方針だ。

顧客が新製品を導入する際は生産工程のプロセス変更もともなうため、採用にはある程度時間がかかるとみる。一方で、LED光源への対応以外でも、自動化やプロセスの最適化などメリットは大きく、地道な提案を積み重ねることで3年以内の本格採用を狙う。水銀

灯からLEDへの切り替えは今後さらに進む見込みで、いち早く市場をとらえたい考えだ。積水フーラーは25年、設立から20周年の節目を迎える。スコット・パーガンディール社長は「20年続くジョイントベンチャー（JV）は少ない。生き残り続けるためには、常に幅広い視点を持ち新たな切り口の製品を生み出し続けることが求められる」と語る。同製品はその一環といえる製品だ。今後さらに研究開発を促進し、業界の新たなスタンダードを生み出していく。